

名古屋国語教育研究会会報

令和5年10月 広報部 第73号

「夏の半日研究会」をふり返って

今年度も、講演会を7月29日にオンラインで、参集形式による各分科会を8月10日午後にはウインクあいちで開催しました。

〈オンライン講演会の様子〉

「国語科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」というテーマで、上智大学総合人間科学部教育学科教授 奈須正裕氏に講演をしていただきました。

〈奈須先生のご講演より〉

- ・ 知識を習得することだけが目標なのではなく、知っている知識を使ってどのように問題解決をするかが大切である。教科を超えて知識同士が結び付き、豊かに関連付いた学びができることが望ましい。
- ・ 子どもたちを、「自分たちの学びを自分たちで進められる学習者」へと育てるべきである。そのために、教師は学習環境を整備し、一人一人に即した支援をしていきたい。

〈各分科会の様子〉

【小学校読むこと部会】

説明文の「読みの観点表」を活用した「くらしと絵文字」（小3年）の授業を例に、子どもたちが自走し、仲間と協働しながら自ら学び進める説明文の授業とは何かについて提案しました。



「2段ロケット方式」による内容面の意欲喚起と形式面の意欲喚起のつながり、学習方法を自己選択・自己決定する読み、協働的な学びを、模擬授業を通して提案しました。

【中学校読むこと部会】

これまでの部会で積み重ねてきた理論や実践を基に、「子どもが主体的に取り組める課題の設定」、「対話で読み深める授業の構想」の二つに焦点を絞って、授業で実際に行われた手立てや子どもの様子を交えて提案をしました。「主体的に取り組むためにも課題を自分事として設定することが大切」「対話の前に個人の意見をしっかりとつことが重要」など、提案を基に国語の授業が目指すものについて、参加者同士でたくさんの意見が交わされました。



【話すこと・聞くこと部会】

「『町じまん』をすいせんしよう」(小5年)の授業を通して、子どもの自走する学びが実現できる授業について話し合いました。現在の自分の力を把握するために「自己分析シート」を使い、学習を通して伸ばしたいことばの力を選択しました。そして、学習の目標を自己決定する場面を参加者の皆さんに体験していただきました。その後の意見交流では、「自己分析」という過程の必要性や実践の課題について熱心に討議しました。子どもの自走する学びを実現するための一つの授業提案を行うことができました。



【書くこと部会】

「単元内自由進度学習」を取り入れた実践の課題を整理し、子どもが自走しながら学ぶことができるようにするために、「自己調整のできている姿」とそこに迫る「手立て」について三つの実践を取り上げました。学習の見通しをもたせるための「モデル文」、自己調整しながら活動に取り組んでいるかを確認する「振り返りシート」を具体的に提示し、実際の学習の様子と振り返りシートを照らし合わせて、どのように評価するとよいかについて提案しました。



【言語・書写部会】

前半は、「エモい」を別の言葉に言い換えたり、「喜び」を表す感情表現を探求したりすることで、主体的に語彙を豊かにする実践と、タブレットを効果的に活用して、行書の特徴を捉えて字を書く実践



を紹介し、質疑応答を通して理解を深めました。後半は、語彙力向上アクティビティ「コトバト」を参加者全員で体験した後、小中学校のグループに分かれて、子どもが自走する学びのために日頃行っている、実践の工夫や悩みを伝え合い、アドバイスや解決法を共有しました。

名国研ホームページ・更新中！

課題研究部（話すこと・聞くこと部会、書くこと部会、小学校読むこと部会、中学校読むこと部会、言語・書写部会）や授業研究部の月例会の様子や案内がアップされています。他にも、会報や研究集録の目次もPDFで見られるようになっています。

「2学期の国語科の授業、どんな風に進めようかな・・・。」

「子どもたちにとって、楽しく実りのある授業アイデアが知りたい！」

という方は、「名国研」でぜひ検索してください。右のQRコードを読み取っていただいても構いません。

「お気に入り」に登録しておくと便利です！

URL <https://meikokuken.sakura.ne.jp>

